



## Beyond KUSS , 2025 !!



### 個別学力検査：二次試験

平常授業の時間割での登校、11月29日(金)で終了です。11回生の登校も残り少なくなっています。「あこがれの先輩」として最後まで気持ちよく過ごしてください。今の時期、日没が早く17時を過ぎるとすでに暗いです。駅まで歩いている人は、神戸から阪神間、そして大阪までの夜景を眺めることができます。この景色に接することができるのももう少しです。本校での学びを最後まで全力で駆け抜けてください。

国立大学の前期日程や後期日程の検査のことを、先生方が「二次試験」とよぶことがあります。みなさん生徒のなかでも「二次」という言葉を用いることがあるのではないのでしょうか。この「二次試験」という言葉の由来は、1979年入試から始まる「共通一次試験」が契機になります。国立大学を受験するには、「共通一次試験」を全教科受験し、その後に各大学実施する「二次試験」を受験しなければならなくなりました。それまでの国立大学で一次試験と二次試験の二段階で入試を行っていたのは、東京大学と東京藝術大学をはじめとする一部の芸術系学部だけでした。1990年入試から、「共通一次試験」が「センター試験」に変わり、私立大学受験にも利用できるようになって、「一次」・「二次」の呼び方はそのまま用いられています。2021年入試から、「センター試験」が「共通テスト」に変わりましたが、前述のように「二次」という言葉は現在も用いられています。国立大学の前期日程は、個別学力検査前期日程が正式な呼称です。

これから出願が始まる入試方式・日程には、私立大学一般選抜、国公立大学前期日程、国公立大学後期日程、公立大学中期日程、公立大学独自日程があります。[No\\_23\(1017\)](#)で紹介しているように、国公立大学の募集定員の62%が前期日程です。特別選抜は24%です。後期日程は12%、中期日程は2%だけです。約4分の1を占める特別選抜に現段階で出願している又は予定している人は34名で学年の約30%です。このデータからすると、後期日程等に出願する人は20人弱になるかもしれませんね。

「出願は受験の肝」です。受験を経験して成長する人の出願はスマートです。自分が進学したい大学、学びたい大学、チャレンジしたい大学に出願すると言うことで迷いがありません。逆に混乱している人は、自分の夢や希望をどこかに置き忘れてしまい、合格できそうな大学を探し始めて決断ができない状態に陥ってしまいます。みなさんはどちらの状態になりたいのでしょうか。これからの時期、共通テストまで2か月、前期日程まで3か月、どれだけ学習を深化させることができるか岐路に立っています。出願が混乱する人は、学習を深化させることが困難です。受験会場で後悔する出願、合格しても進学したくない出願、絶対にやめましょう。これからの大学、どんどん二極化していきます。「合格しないかもしれない症候群」に陥り、混乱した出願は絶対に避けましょう。

先日講演いただいた高島芦屋市長は「『好きなこと』には正直であろう」、「好きなことじゃなきゃ、自分を主語にできない」と話をされました。「夢」に向かって全力で学習を積み重ねていくのが受験です。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2025 !』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。